増補
頭書
訓蒙圖彙大成
七

頭書増補訓蒙圖彙巻之十四

龍魚

此部には海水川谷にすむもろ〳〵の龍蛇魚鱗とあるを

○蛟ハ龍の角なきものなり四足ありてせなか青まだらにして帶のごとく水中又深山幽谷にすみあり

○龍ハ鱗虫乃長也せなかに八十一の鱗あり九々の数をそなへたりよく雲雨をおこすを

蛟 みづち

○螭ハ蛟よ似く角なし龍にして色黄なり
○魚虎一名土奴魚といふ海中にありてよく潮をふく如く城门に此魚をつくるハ火災をさくるの心なりといへる
○鯨ハ海中の大魚なるも浪を鼓して雷となし沫をふく泡をなすと雄を鯨といひ雌を鯢といふ

龍
たつ

○鰐ハかしら大ニして四足あり口大ニ人をのめバ海上ふうく
鼉同
○鯪ハかしら鯉ニにて陵ニ穴して居るよつて鯪鯉といふ四足あり背鬣の如く鱗かたく鉄のおとし
○鯛ハ棘鬣魚と云水腫を消し小便を利し痔を治し上氣虚労を治を但

螭

産後百余日のあいだ
かたくいむべし若あ
やまりて食すれバ必
死す

○鯖ハ湿痺によし
韮と同しく煮て
食すれバ脚氣煩
悶を治し氣力をま
すなり

○鰺ハ水腫を治し
痢疾を治することあれ
て尿を通ずるものハあり
ふぐとうしく

○鰷ハ煮て食すれバ

魚虎 しやちほこ

鯨 くじら

うまひとやめ胃をあ
たゝめ冷瀉をとむ
鯛魚同
○鮑ハ中をおぎなひ
氣おすゝを多く食
すべからず瘡お発
し脾湿をうごかし
足膝ヲ利おしど
○鯧ハ婦人難産
にくろやきおして
酒にてきゑくを
もバ産しやすし
文鰩同
○鯼ハ五臓をおぎなふ

鯪
穿山甲

鰐

ひ筋骨をほし脾
胃を和をおく食
すゝむよし
○鮏ハ一名過臘魚也
此外鮭ようつくるハ非也
○鯼ハ胃をはくゝめ
人を益し痢をやむ
多く食ときハ風
熱をうごかしかさを
發す
○鯼魚ハ今いふくち
だひあり又ハちぬさ
いともいふ
○黄檣ハ今いふてる

鰷 でう せいご

鯖 せい さば

鯛 てう たひ

鰺 さう あぢ

おぎなひあり
○烏頰魚ハ今のふ
どとやんぶいなり
○梭魚ハ五臓とおぎ
なひ肌とうるほし
氣力をまし積ハ
治し虫とろを
○鰈ハ王餘魚とも
比目魚ともいふ虚を
おぎなひ氣力をま
を多く食すれバ
氣ハうごくを
○海鰻ハ五痔湿痺
面目うそぶき脚氣

風氣ふさしきをよく女
の水氣あるによし
○鯧ハ人をして肥さと
やハらかにし氣食を
ゆと鯚魚同
○鯔ハ胃にひらき五
臓を利し人をして
肥をこやさらしむ
○江魮ハ胃をあたゝめ
中を補ふ多く食を
まバ瘡を發すヽ鯇
魚とハ又水魮とも
書なり
○馬鮫ハ一名章鮌

といふちいさきものは
青箭といふさごし
なり章鮌攞錫同
○鱈は風をさり酒を
さまし煮て食すと
は水腫を治し小便
を利す
○鮒はまへの鯔の子
にてさうりめぐるら
ぎらりなりせざる
ゑぶなとよびあり い
づまも同物異名也
○鱸は五臟をおぎな
ひ筋骨を益腸胃

を和し水氣を逐
おゝく食すれバ痃
癖となる物なり
○鰹ハ生ハ膈をさくよ
ふし炙ハ脾胃をます
のみ多く食すれハ血
をうごかす
○鱅ハ虚労をおぎな
ひ脾胃をます腸風
瀉血を治し氣力を
添ふ人をして肥を
やかならしむ
○魴鮄ハ鯐に似て
色あかし一名藻魚と

鯧 まなかつを
扁魚 同

鯔 なよし ぼら

江鮭 あめ

馬鮫 さわら

もいふ
○江豬ハ脯となして食ときハ虫を殺し瘡を治す又海豚とも書なり
○鱈ハ其性未考秋の末ニ多く出る
○鱣ハ長二丈ばかりも灰いろありせなかニ三行あり鼻なくあごひげあり玉版魚同
○鮫ハ首鼈亀ニ似て脚なく尾の長さ一丈

余すぢハひ美あり皮ハ刀の柄さやにはるなり

○鯀ハ魴鮄ニ似るそ小児の食ひぞめニもちひ用ゆ

○鱠残魚ハ一名王餘魚といふ呉王船中にて鱠を海にすつる小魚となりて今の王餘魚これなり

○鯽ハ小鯉に似て色くろし五味ニ合せて煮て食ふなり

虚羸をつかさどる中
をあたゝめ氣をま
し下痢腸痔を
やむ蕁に合してわ
つりのよふしては胃
よろしからず食ぞ
らざれば病つかさどり
中とその人ざうを
ますと
○鰊は水腫を治し
小便を利し下血ぞ
つかさのゆへに葱
とはしく煮て食
よろし

鱣 ふか

鯐 すばしら

鮫 さめ

鱠殘魚 きすご

○鯉ハ頭より尾まで
いたるまで鱗ハ大
小なし三十六
鱗あり煮て食を
きハ欬逆上氣黄
疸を治し渇水腫
を治す
○杜父ハ一名かぢかと
もいふしぬをびとも
又ふぐるとそうひとも
いふあり五臓をおぎ
なひ脾胃を和す
又杜父ハいりこを也
土鯆土鮒土附同

鯽 ふな

鮧 なまづ

鯉 こひ

○鰣ハ虚労をおぎ
なひ油氣をゆくやけ
ざふゆりて妙なり
○鱓ハ中をおぎな
ひ血をまし虚をお
ぎなひさんごのわく
露を治す
○鰻ハ虫をころし瘡
を治し脚氣腰腎
のおとろへ湿痺を治
し陽をまそく
○黄鱨ハおほく食す
べからず脾胃をそんじ
泄痢す一名黄顙

魚といふ
○鰌ハ中をあたゝめ氣をまし酒渇を
かわきをやめ痔を治す
○金魚ハ藻のうちにすむ甘平毒なし
久痢を治す銀魚朱鯉朱鮒あり
○年魚ハ煮て食すれバ痩をやめ胃をあたゝめ冷瀉を止
○鱖ハ眼あかく鯼とちがふ又一名赤眼魚といふ

○鱭魚ハ火をさると
け痰をうごかし疾を
発し瘡ぶくろを
多く食すべからず
○鯒ハ能毒いまだつ
まびらかならず鯒
とも書なり
○河豚ハ虚をおぎなひ
湿をさる腰脚
とおさめ痔をさる
虫がころすと此魚ハ
大毒あり食べからず
○鰔ハ功能いまだつ
まびらかならず

鱭魚 たちうを
鮆魚
鯯魚
鱴魚
魛魚 同

鮠 ひう うぐひ

鯒 こち

河豚 ふぐ
鯸鮧 同

○小鯛ハ鱧のかさ
りのおり功能なをも
れ同し
○鱵ハ甘平毒なし
あまた食すれバ疫
病をやまず針魚同
○鱒ハ胃をあたゝめ
中を和す
○鰕ハ鼈瘕を治し
痘瘡ふつけをよし
陽をさかんにし乳
を通ず小児食すれ
バ足よわくなる
蝦同

鮫
小鯛
鱵
鱒

○鰝ハ鮓にして食すれハ虫をひきだし治し頭のかさを治す紅鰕龍鰕海鰕同
○河鰕ハかはえびと俗にてながえびと云
○醤蝦ハゑびのこまかなりのなり苗蝦線蝦泥蝦ともいふ
○麪條ハ中をゆるくし胃をすこやかにし水を利し欬をやむ
○蝦姑ハゑびのるい

ひかり海馬といへる
このましかり産婦に
もたすれバ平産
をとぐる
○鰤ハ肝を利し血
をめぐらし脾胃実
するものかろき事し
なりき
○鰣ハ虚労をおぎなふ
ふ油紙よりてやけど
によりて妙なり
○鰉魚ハ腹赤とも
かくなりしろの魚
と帝に献ぜし事

醤蝦 あみ

麪條 しろいを

蝦姑 しやこ

鰤 ぶり

あり
○矢幹魚ハはもに
似たる魚なり膈症
のどに食つまるを治
す
○青前魚ハ諸病に
いまむど馬鮫のちの
されものなり
○鯡ハ能毒つまび
らかならず猫の病を
いやす
○鱓ハ鼠頭魚乃
ちのされものなり能
毒いまだつまびらか
ならず

鰣 し ゑそ

矢幹魚 しんかんぎよ やがらいを

鱣魚 せんぎよ ある

青前 せいぜん さごし

鯡 ひ ふきん

○水母ハ婦人の虚損積血さしけ小児の丹毒みやけどふ付て妙あり
○烏賊ハ氣をまし志をつよくし人ハり益あり月經を通ス
○鱝ハ男子の白濁膏淋玉莖のいたミを治す小毒あり人ふ益あらも海鷂魚同
○土肉ハ元氣をおぎなひ五臓をまし三焦の熱をさる鴨とほど

鱓 ごまめ

水母 くらげ

海月 石鏡 並同

鱝 えい

烏賊 いか

邵陽魚 魟魚 鯆魮

く食すべからず
○海馬ハ血氣のめぐりを
を治し水腫をおろし
め湯道をさうんふし
めさゆりを消し疔
をきこいさむふよし
○海牛ハ功能いまだ
つまびらかならず
○章擧ハ血をやしなひ
ひ氣をますを冷なる
ものなれバ脾胃よわ
きものハ食すべからず
章魚同 石鉅ハあし
みじかく飯蛸いゐだこ

○鮪はかしらちいさく
してせなかにみぞ有
なり口おとかひの下に
あり大なるは七八尺ばか
りあり
○鯑は疫病を治し
痕を治し虫をころを
又鯢とも書
○魚子は目のうちを
ひやし鱖又は鯇に
あり
○乾鱖は鱖のほしたる
なり能毒鱖に同
目の玉は煮出しには

かつをふしのさまなり
○鰊鯑ハ鯡の子なり
正月にハしうげんに用
○鰑ハ烏賊のほし
たるなり能毒いふ
ほし産後によろし
○鱲子ハ鯔乃子
のほしたるなり
○鰭ハ魚の脊をいふ
俗にひれといふなるを
ともいふ鬐鬣同裵ハ
陽氣上よりのぼる魚
の美味鰭にあり冬ハ
陽氣下にゆくゆへに魚の

鱲子 からすみ

魚子

鰊鯑 かずのこ

鰑 するめ

乾鱖 かつをぶし

美味腹にあり
○鱗ハ魚龍のうろこなりと鱗ある物の龍これが長なれバ鯉ハ大小となくみな鱗の数三十六鱗あつて
○鰓ハ魚の頬の中の骨なり俗にこれをえらといふ又かさとも云
○鰾ハ魚の腹中に在ふえといふ魚膠なり膠につくりて用べしと云

頭書増補訓蒙圖彙巻之十五

蟲介

此部には野草にすむところの蟲 川谷にすむ甲介ある虫の類をあつむ

○亀ハ四肢ひきゝ
ほそく多くるにて
ろしふ浮血血痢
ともに三十年来
の寃嗽を治す

○鼈龜ハ瘀血を作し
陰を補ひ婦人乃
難産腰痛を治ス

○蠏ハ痔漏を治ス
虫ところを多く含

へハ嚔および瘡疥
ぢろし
○蠘ハ一名を黄甲
とりハがざめなり
○蟳ハ一名を蝤蛑
とりハ小児のつら熱
氣ふよし
○螺ハ瘰癧結核
むねのうち鬱氣
あそのひざら紙漬へ
羸蠡同
○田螺ハ小便を利し
目の痛を治を
○蟹ハ血をさんじ

蠘 がざめ

鱟 かぶとがに

蟳 たまぐふ

筋をやしなひ氣をまし食を消をうるしまけによりて付てよし螃蠏郭索同石蟹蟛蜞わしかにふ鼈

○毛亀ハ陽道をたすけ陰血をおぎなひ精氣をまし痿弱を治す

○螄ハ目をあきらかにし水を下し渇をやめ熱をさり大小便を利し酒毒

田螺 たにし

螺 さゞへ

蟹 かに

を解す海螄夫
螺螄ハはる
○蛤蜊ハ五臓をうるほ
し酒毒をけし胃
をひらき婦人の血
塊をけし
○鰒ハ五臓をうるほ
し胃気をひらき
にし中を温め食
を消し陽をおこす
○蜆ハ胃気をひらき
乳をつうじ目を
あきらかにし小便
を利し脚気酒毒

毛龜
みのがめ

を治す
○蚌は渇をやめ熱
をのぞき酒毒を解
し目をあきらかにし
帯下をとむ。蜯蚌同
馬刀
○貝はけだものおか
へ目のいたみを山菜
に合し煮て食へば心
痛を治す。海肥同
○蟶は虚をおぎなひ
ひ痢を治し胸中
の熱いきどほりをさる
○蛎は虚損を治
螺
螄
蛤
螄
蚶
蜆
扁螺
魁蛤
瓦壟子

中をとゝのへはらをやく
くらへハ酒後の熱を
さます
○鰒ハ精をまし目を
明くし五淋をつうず
し肉ハ眼をあきらかにし
風熱労瘵をす
○車渠ハ神をやすんじ
諸の薬毒を解を
能毒あるハと同
○淡菜ハ虚労精を
ます腰痛疝気帯
下によし久く食すれ
バ人の髪ぬくる

蚌 からがひ

蠣 かき

肉を蛎黄といふ

貝 たからがひ

鰒 あわび

蟶 まて

石決明
九孔螺

○辛螺ハ飛尸遊虫に生ずるに食ふべし
○梭尾螺未考 法螺貝なるか
○玉珧ハ巧用蚌に同し多く食すれバ風気をおこす
を蠘蠬ともいふ
○帽貝ハかたち帽子に似たり能毒ハいまだつまびらかならず
○海燕ハ寒湿よわ

車渠 かきそび

辛螺 みし

香螺 みがにし

梭 かいのひ

淡菜 みるひ 一名殼菜

玉珧 たいらぎ

江珧 並同

海月 馬頰

てうきみをいてむしよ
汁に煮てくらふべ
し一名陽遂足又
海盤ともいふ
○寄蟲ハ顔色を
悦し心志をうるハ
しうを
○海膽ハ能毒いま
だつまびらかならず
○郎君ハ婦人乃
あんざんにのぞき
もちいゆる酢の
中へいれてうごく

帽貝 えぼしがひ

寄蟲 がうな

海燕 たこのまくら

郎君 をごがひ

相思子 同

海膽 うにがひ

○螢ハ腐草又ハ
爛竹の根化して
ほたるとなる夜の
大火氣を得て化
をよろこび光る也
○蛬ハ蟋蟀とも
蜻蛚ともいふ蓑の
蝗に似て大なり補夜
の末よりいづる
○螻ハ土中の泥に
をむしおほくすむ也
一名土狗又ハ石鼠
ともいふ
○蟷蜋ハいぼむし

虫仲夏にはまどいゆ
なられハ臂をくゝ
○絡線ハきりぐ
をともいふ一名聒
々兒いとゞといふも
此うらひなり
○螇蚸ハ一名蟿
螽といふあさく
むし俗ふきちやう
まやうむし
○竈馬ハ一名竈
雞といふかたち丸く
脚長し竈のかく
ちゐちふをむ

蟷螂 たうらう かまきり

螇蚸 けいれき きちやうろうむし

竈馬 そうば まるいとど

絡線 らくせん こうろぎ

○蜻蛉ハ六足四の
つばさあり水生などと
んでむしなどといひ
喰ふ大なるをやん
まといふ
○赤卒ハとんぼう
の又小さきものなり
俗にあかやんまと云
黒やきにして喉痺
を治す
○阜螽ハ稲に生
る蝗同
○蟭螏ハ一名螽
斯いなごに似たり

蜻蛉 えんばう

阜螽 いなご

赤卒 あかゑんば

絳騶同

蟭螏 そうろく

○蝶ハ蛍化して
あをむし変化して蝶
となる鳳蝶ハあげ
は胡蝶蛺蝶野や
蛾同
○蠅ハ前足にて縄
をなふかたちをするを
もって虫へんに黽の
字とす爛灰の内
よりしやうず
○金亀ハ大さ刀豆
のごとし夏蔓草
乃中にしやうず
○燈蛾ハ燈をとる

蝶 てふ あげは

蠅 はへ

金亀 きんき たまむし

燈蛾 とうが ひとりむし

[illegible]飛蛾とも燭蛾
ともいふなりむし
〇馬蜂ハ蜂の大なる
ものなり又くろし
〇叩頭ハちからとり
むしともぬかつき虫 補
ともいふ
〇蛤ハ七月の末よ 補
り生じ声金風の
音のごとし廣野に
生ず
〇金鐘ハ一名金鏡
[illegible]とも月鈴児とも
いふなり

馬蜂 くまばち

蛤 まつむし

叩頭 ぬかつきむし

金鐘 すゞむし

○螽虫はよく声くつわの音に似たりとてなづく
○斑蝥は人に大毒なり 斑猫とも書
○緝蠜は水上に飛で虫をとる 緝蝶同
○蠽髪は一名天牛 よもいふかく髪をとく ひきる目の前に二角あり
○蓑虫は一名木螺 结草とも
○蜂は腐菌化し なる毒尾あり

針のごとくなる蜂
といふなり
○蠹ハいつふして木
中にて木をくらひ
くらふ木なり又蝎
といふ蠹とぞいふ又ハ
蠋といふ
○蟢ハあしたかぐも
なり蟰蛸同
○蟬ハ地虫化して
なる口なりよつて鳴の
んで食なと
○蝸ハ池澤草樹の
あふ生すとかくつ螺

には似て色白く角あり
○虻は大なるは木
虻といふ小さきは
いくかく麦虻と
いふ又まつく
○蛾は蚕蛹化して蛾
となる燈蛾の類也
○蠮螉はさそり又
蜾蠃とも細腰蜂と
も蒲蘆ともいふ俗
にいふ似我蜂
○氣蟞は一名行夜
つよき臭して香く
ひるなど

虻 あぶ

蛾

氣蟞

蠮螉

補
○蚋は田野に生じ夏の蒸湿に飛て人の肌をさして其あと愈がたし
○蚊は孑孑虫化してなる豹脚はやぶか也
○孑孑はたまり水よりて生じ化して蚊となる一名釘倒虫
○蛙は惣名なりねずみ色にして背に緑なる紋のあるを云
なし変じて蛭の水

蚋 ぶと
蚊 か
孑孑 ぼうふり
蛙 かへる
田雞
水雞 同
蝌蚪 かへるこ
青蛙 あまかへる
蛭 ひる

中に住み又青きと
あまがへるといふ又赤
きと赤がへるといふ
毛を小児に食せし
めよし
○蝌蚪は蟇の子也
水中に生ず蛞斗
活東並同
○蛭は大なるを紘馬
蛭といふよく人の血
をすふ
○蠼螋はちゝむち
でふ似て又黒し
人の耗よいたりすき

蠼螋 くちう はさみむし
蛷螋 きうそう
搜夾 同
蜈蚣 ごこう むかで
蟾蜍 せんじよ ひきがへる
蠙衙 同
蚰蜒 ゆうえん げじげじ
百足 ひやくそく とさけ
蝦蟆 がま かへる

がんさ紙袋を
○蜈蚣ハせなか黒く
みどりな足あく
腹黄なりさされなる
人ハ烏鷄の尿ぬれハ
大蒜をぬるべし
○蟾蜍ハ腹白く黒
き斑ありせなかにが
んぎあり油ハ蟾
酥といへ薬に用ゆ
○蝦蟇ハせなか小黒
點あり身小にして
よくおどる化して
鶉となる

蠓
蚘
蚯蚓
蠐螬
糞蛆
蛆
蟫
蚤
蝛い蛜い
蟻

○蚰蜒ハむかでに似て足長し毒あり人の耳に入らハ龍脳をふき入べし

○百足ハ長さ七八分色黒し足百あるなり一名馬蚿

○蠓ハ雨ふらんとて生じ陽気にて死 蠛がでる時ハ風吹 舂のごとくさがるときハ雨ふる

○蚘ハ人の腹中に在ながき虫なり 蛔同

蜘蛛 くも

土蠱 どこ

蛣蜣 くそむし

蠶 さん かいこ

水蚤 とびむし

沐虱 ふこ

脾胃の湿熱より
生ず
○蛆は腐肉のあひだ
に生ず魚肉畜肉の
肉のうちに生ず鮓
の中にもつく蠁同
○蠐螬はくち蠹蟲の
おほし樹根又は糞
土の中に生ず形も
ちく色白し　補蠐螬
同又ちく黒きあり
○蚯蚓は雨ふる時は出
ちるてきたは夜なく
○蛐蟮は二名蟋蟀

水馬 あめんぼう

蠑螈 いもり

蝘蜓 やもり

蜥蜴 とかげ

滑蟲 あぶらむし

虫といふ又は鼠婦ともいふ
○蟫は書中の白魚なり一名蛃と云俗に蠹魚といふ
○蚤は床下土中に生ず
○虱は人の身につく髪につくを毛にもあるくらちかふまり
○蟻は大なるは蚍蜉といふ小さき蟻といふあり君臣の義あり故に義の字をつく

殻 から

蛻 もぬけ

蟬蛻 うつせみ

繭 まゆ

甲 かふ

介 かい

○蜘蛛はちようらいぐもと云蝃蛛といふ異名あり又を蟢子といふむかしの大昊くもをとそてわなかむをむび出せり
○蚕は糸を吐虫なり三たび伏し三たび起二十七日にして老黄帝の元妃西陵氏始て蚕をやしなふて糸が作
○蛣蜣はよく糞土をまろめて丸をなす
糞虫同

蛅蟖 いらむし

豉蟲 まひくむし

蚇蠖 しやくとり

蛞蝓 なめくぢ

蛈蝪 つちくも

補
○土虫盤ハ蛭に似て足黄色なり頭耳うさぎのごとし俗にみゝずる蛭といふ此虫大毒あり
○木虱ハ木竹より生ず虱に似てちいさく黒く灰色なり壁虱同俗にいへたに
○水蚕ハ一名水虱といふ湿地の土中に生をよくさぐ目脆れつけくらし
○水馬ハ一名水黽といふ水上におよぐ水

壁銭 ひらぐも

蠅虎

螵蛸 おほぢがふぐり

雀甕 すゞめのたご

かる蛇にいとへさき一すべ
かりも四足あり
○蠑螈は水中に住
せなか黒く腹赤く
四足あり
○蝘蜓は一名守宮
といふ此虫を殺て宮
女の臂にぬれば男
と犯ことあればきゆる
なうされざるげどろ
て守宮といふ壁虎
蝎虎並同
○蜥蜴は土中にすむ
毒あり石龍子山龍

蟒
うはばみ
やまかゝち

すがゞびに同
○滑蟲は一名蜚蠊といへるなどの名そ多し補羽ありてとぶなり
○殼は蜉螺の殼のからの異名也蛤のからを云此粉といふ痰を治せるいのち紙甲香とも又厴とも書なり物ん入鰒の貝のからを石決明と云目の痛を治すかちゞをよわき貝のからを牡蠣と名づくよく盗汗をとむる
○蛻はもぬけ虫蛇はへびのきぬ

烏蛇 からすへび

銀蛇 しろへび

蝮 まむし

両頭蛇 くちなは

岐首

なり〇蛇蛻ハ蛇退とも云
黒焼にして酒にて用ゆ
れハ難産によし
蟬蛻ハ蟬退とも枯蟬
なり粉にして酒にて
を耳だれに付れハ治る
〇甲ハ亀の甲なりむ
かしハ亀をやいて甲の
紋をみて吉凶をうら
なふ事なし是ハ亀
下をいふ薬に用ゆ
れハ腎水を補ひ瘀血
を消すまた鼈甲ハ瘀
血を散し腫を消す

介ハ蟹の甲なり○繭ハかひこくひて眉とさせ綿とする蠓ハくハすなり○蛣蟖ハ一名黒鬚毒虫といふ
木上にすむ人をさせばきハむ○蚇蠖ハ樹上にすむ行こと指にて尺をとるがごとし○鼓蟲ハ一名鼓母虫と
いふ水中にすむ又黒くふし○蛞蝓ハ二角あり蝸牛に似たり一名土蝸といふ○螲蟷ハ土窟の中に
すむ一名鉄蝪といふなきいろやふ有○壁銭ハ壁戸などのすみにあり一名壁鏡といふ窠を壁繭といふ
○蠅虎ハ一名蠅豹といふ蠅蝗蠅豹並同○雀瓮ハ一名蛅蟖房といふけむしの窠なり○螵蛸ハ
木の枝にあり一名螗蜋房といふかまきりのすなり○蚦ハ蛇の大なるものなり深山広野にすむ人を
のむなり○蛇ハ草中にすみて蛙を食ふ蛇ハ惣名なり○蝮ハ蛇に似てちいさく黒黄色なり
おとがひ黄にかしら大に口とがる毒あることはなはだしく人をさす又ハ反鼻蛇ともいふ○烏蛇ハ
身黒くひかりあり頭まろく眼あかし又烏梢蛇とも黒花蛇ともいふ○銀蛇ハちいさし一尺ばかり一名ハ
錫蛇又金蛇といふ○両頭蛇ハ二頭ハ口同じ是をみれば不吉なり一名越王蛇といふ
ふた岐ある蛇なるを枳首蛇とも書こと毒あり触るべからず○螱ハ飛蟻なり朽木より生ず
○吉丁虫ハぜにみどりにて光のあまし此虫をとりて身におぶれば人を愛し媚をむ○芋蠋
芋の葉にすむ○蛅蟖ハ木の葉に生じて枝を食枯す○蚌虫ハ米の中にすむ俗にいふ
こくぞう○蠛蠓ハかつをむし順の和名抄に見えたり

頭書増補訓蒙圖彙巻之十六

米穀

此部ハ五穀の類をはじめくひ物のたぐひを記す

○粳ハ氣をまし胃の氣を和し中を補ひ腎精をまし腸胃をあつくし
○糯ハ中をあたゝめ氣をまし脾胃をあたゝめ小便をちゞめ虚寒洩痢をとゞむ
○粟ハ腎氣をやしなひ脾胃の熱をさり小便を利し反胃を治す
○稷ハ氣をまし不足を補ひ熱をのぞき中を安くし胃を利し血をとゞめ暑を解す
○稲ハ禾同 かつていね

稊はいぬびえ　苗はなへ又
苗代ともいふ
○稗は中をおぎなひ氣
をまし腸胃をあつくし
飢をたすく
○麥は虚をおぎなひ血
脉をさかんにし五臓を
實し顔色を益
○蕎は腸胃を實し氣
をくだし積滞を和し
熱腫風痛を消す
○菜は食を消し氣を
くだし熱をさり毒を解
し小べんを利し脹滿
泄痢をとゞむ

粟（ぞく）あは
秫米（もちあわ）
粱米（うるあわ）

稗（てい）ひえ
稊稗同

稷（しよく）きび
丹黍（もちきび）
秬黍（くろきび）

○麻は女人經候通ぜざを
けんがう金瘡内痔を
治し悪血をさる
○豇は氣をまし腎をお
ぎなひ胃をとゝのへし
五ざうを和し小便しげ
きをとむ
○豌は小便を利し腹満
をのぞきさどう消渇を治し
吐逆を治し胡豆蹕豆な
らびに同
○薇は水腫を治し悪血を
さんじ脾胃をとゝのへ
し酒病を解し胃中の
熱をさる

菉 やへなり ぶんどう

蕎 そば

荍麥同

麥 むぎ

稞麥 はだかむぎ

○荅ハ水氣を下し濃血をちらし小便を利し脹満消渇を治す

○藊ハ中を和し氣をくだし暍をやめ久ざりとあざなひくらん酒毒を解す扁豆 籬豆 眉豆なりびふ同

○胡麻ハ氣力をまし肌肉を長じ筋骨をつよくし大小腸を利し耳目をあきらかにす

○罌粟ハ風毒をさる邪熱をおい瘡を治し反胃を治し咽のかわきをうるほす

麻 あさ

豇豆 ささげ

白角豆 紫豇豆

豌 のらまめ えんどう

○蠶豆ハ胃をこゝろよくし臓腑を和す一に胡豆となづく
○玉黍ハ氣をまし中を和し泄をとゞめくわくらんをぶう
膓をとゝのふ小べんを利す
○蜀黍ハ中をあたゝめ腸胃をあつくしくわくらんを治す蘆穄荻穄同
○刀豆ハ中をあたゝめ氣をくだし腸胃を利しあやくりをとゞめ腎をまし元をおぎなふ
○黎豆ハ中をとゝのへ胃をまし小便をつうず貍豆

菽 まめ

藊 あぢまめ いんげんまめ

荅 あづき

虎豆ならびに同
○燕麦ハあまく平とく
なし飢をやしなひ腸をな
めらかにす一名雀麦といふ
○穂ハいねのほなり莖を
のぎ秕ハしひなせ今揩ど
ろふみよさ
○藁ハわらなり禾稈禾
穰稲草わらびよ同稈
ん心ハわらしべ稭藁秸並同
○穀ハ禾麻粟麦豆
あわせて五穀といふ種ハ
たね稃ハもみぬか
○萁ハまめがらなり䕢同
魏の曹植詩ふつくまり

胡麻 ごま
油麻 脂麻
芝麻

罌粟 けし

蚕豆 そらまめ

○莢はまめのさやなり豆角なり藿はまめの葉なり馬ささげともいふ
○饅頭はまたは肉餡ともちひし車なり小豆餡のものは素饅といふ餡なきものを蒸餅といふ今は新製品とあり唐饅頭あるひは煎餅饅頭などいふものあり
○飯はいひなりまたゞめし強飯はこはいひ赤飯はあづきめし乾飯はかれいひ水飯は湯づけめし 補 麦飯はひきめし 粟飯はあはのめし

玉黍 なんばんきび
蜀黍 たうきび
燕麦 からすむぎ
刀豆 なたまめ
刀鞘豆 挟剣豆 同

魏の曹植詩ふつくり

○餅はもち麪餅なるを
糕は粉餅なり團子なるを
飯團はにぎりもち 補 粟餅を
あはもち艾餅はよもぎもち
○糖はあめなり飴同濕糖
はぢるあめ餳はかたあめ也
とりに老人とやしなふの
一種也蕃薯と名づくる
補 もの也當時夏月に專
小兒に用ゆ
○糉はちまきなり粽同じ
角黍といふ楚の屈原を
まつりにはじまりし事といふ
古は茅の葉にてつゝみ五色
補 の糸にて巻しとぞ今用

ゆる笹の葉ハ腹中によ
ろしからざるゆへ能くわく
け出しよくゆでゝ用ふ
べし
○索麪ハむぎなはといふ
一名索餅といふ又温飩
蕎切冷麦などいふ物をも
へて麪類といふ
○餢飳ハ俗に伏兎といふ油
であげたる餅なり
堆ともかく
○環餅ハまがりといふか
らあげの菓子なり糫
餅膏環とも寒具とも
いふ巧菓ともいふ

○酢漿ハとうふのからの事さ 漿を醤とも書べし俗に湖糟とかくなり
○燒餅ハ餐とも書べし 串にさしたるをこぐといふ 又まるのもちにつくりて鶉やきと名づく
○粔籹ハおこしごめなり糯をとりて飴にてかためたるなり 俗に興米とかけるハあやまりなり 補 あさと飴をこしといひかとあるが岩おこしといふ
○煎餅ハ餅をのべてやくあぶりたるなり又錢餅とも書べし

酢漿
燒餅
粔籹
餢飳
煎餅
巧菓
環餅
索麪